

③烈婦登波の表旌碑



烈婦登波は滝部八幡宮の宮番の娘で、文政4年（1821）10月末、妹まつと夫枯木竜之進との間の離

婚話がもつれ、竜之進が父甚兵衛、弟勇助を惨殺、義妹まつと夫幸吉は重傷。知らせを受けた登波は川尻から駆け付けたが、竜之進逃亡。義妹まつは3日後に死亡した。この仇を討とうと、許しを得て全国60余州を探索、天保12年（1841）ついに竜之進を豊前英彦山で見つけ、藩の助力を得て本望を遂げた。登波43歳であった。登波の仇討に感銘した代官周布政之助は碑文の作成を松陰先生に頼んだ。大正6年（1917）中山太一氏と桂弥一翁、村の有志の手により碑文を刻んだ石碑が完成した。この碑は、毛利元昭公の寄贈。碑文をてん刻したのは文部省出仕、高島北海の兄高島張輔である。また、一面の「烈婦登和碑」五大字の銘は勅撰議員男爵で名筆家の野村素軒（素介）の筆になる。